

コンテナ苗の意見交換会の進め方

1 趣旨

造林の低コスト化に向け、伐採から植付けまでの一貫作業システムや下刈作業負荷の低減を推進している中で、コンテナ苗の活用は、植付けコストの低減、植栽の期間拡大等から重要なポイント。

しかしながら、わが国の自然環境、林業に適したコンテナ苗の生産及びコンテナ苗を使用した作業システムが確立しているとは言えず、現在、各現場で技術の定着に向けて実証が行われている段階。

今回の検討会では、「造林の低コスト化＝苗木の生産から下刈り終了までの費用の最小化」に適した作業システム及びそのシステムに適したコンテナ苗の考え方、特に、そのシステムに適合したコンテナ苗の生産について、関係者による意見交換を行う。

2 問題意識

(1) 下刈回数の低減という観点からは、大型苗(300cc)の方が有利ではないかとの考えがある一方で、植付け作業の観点からは150ccの方が扱いやすいとの意見もあり、植栽後の活着率、初期成長等からみて、300ccと150ccはどちらが優位といえるか。

(2) コンテナ容器の形状について

現在国内で利用されるコンテナについては、リブ付き(Mスター含む)、スリット入り、生分解性シートがあるが、それぞれのメリット、デメリットは何か。特に、特定の樹種(品種、実生、挿し木等含む)、地域等において、明らかにメリット、デメリットがある場合はあるか。

(3) コンテナ苗の生産方法について

- ① 培地について、培地の要件と充填方法
- ② 播種方法
- ③ 育苗方法(水分、養分の管理上のポイント)
の確認

(4) 残苗問題の解決策として、育苗期間を1年程度とする苗木の生産が可能であるとされているが、1年程度での苗木の生産は可能か。

(5) 東北局では、活着率や初期成長からみて、現在の苗木の調達基準を苗長35cm以上としているが、コンテナ苗に対して合理性はあるか。

(6) 林野庁がコンテナ苗の標準規格を定めているが、活着率、初期成長を確保するための物差しとする基準として適切か(例えば、形状比など)。改善すべき点があるとすればどのような点か。

(7) 苗の出荷から植栽までの管理、植栽方法について、

- ① 苗は植え付け直前にコンテナから抜くべきと考えるが、事前に抜いても問題ないか。
- ② 事前に抜く場合は、植付けまではどのように管理すべきか。その場合のポイント。
- ③ 植付器具は既存のもので十分か。

3 意見交換事項

(1) 問題意識(1)、(2)について

これまでの実績からして、容器の形状、大きさ(300ccと150cc)のそれぞれのメリット、デメリットは整理できるか。また、優劣はあるか。

(2) 問題意識(3)～(6)について

問題意識(3)を意見交換して確認しつつ、活着率、初期成長の育苗期間約1年の可能性を明らかにし、その規格の作成ができるか。

(3) 問題意識(7)について

わが国の林業に適したコンテナ苗を活用したシステムはどのようなものか。

参加者名簿

小島 孝文	東北森林管理局 局長
小林 重善	東北森林管理局 森林整備部長
木村 光一	東北森林管理局 森林整備課長
永瀬 和	東北森林管理局 造林係長
福島 行我	林野庁国有林野事業部 業務課課長補佐(森林整備班担当)
藤原 智史	林野庁国有林野事業部 業務課造林係長
志田 有里絵	林野庁森林整備部 整備課環境緑化木係長
宇津木 玄	森林総合研究所 研究ディレクター(林業生産技術研究担当)
梶本 卓也	森林総合研究所 東北支所長
八木橋 勉	森林総合研究所 東北支所 育林技術研究グループ長
田村 明	林木育種センター 育種部育種第二課 育種調査役
大平 峰子	林木育種センター 育種部育種第二課 主任研究員
安樂 勝彦	全国山林種苗 専務理事
太田 清蔵	太田種苗 5月15日のみ
2~3名	仙台森林管理署 森林育成担当 5月15日のみ
3名	宮城北部森林管理署 森林育成担当 5月15日のみ

東北森林管理局 ワンデナ苗生産検討会

宮城県栗原市太田コテナ苗生産研究会 2018.5.15



東北森林管理局 コンテナ苗生産検討会

30.5.15



東北森林管理局 コンテナ苗生産検討会

於て 蔵王町太田コンテナ苗生産研究所

30年5月15日



29年4月植栽 コンテナ苗の根系



九州産植し木 300 コンテナ苗の根系



コンテナ1年生苗と2年生苗の根系



ズキコンテナ150苗 29.4.植栽根系

⑨

30.5.15



スキコンテナ150^{cc} 29.4.植栽苗 30.5.15



スキ押し木コンテナ300^{cc} 29年4月植苗の根系



東北森林管理局 コンテナ苗生産検討会
情報交換会 会場 遠刈田大和ロイヤルホテル



現地検討会 遠刈田大和山展示林又3年4月設置

